

聴覚障害に理解を深めてもらおうと、福井医療大(福井市)の学生グループが、日常生活で当事者が困っていることやその解決策などを紹介するパンフレットを手作りした。同市のアオッサで14日に開く啓発イベントで配布する。学生たちはクラウドファンディングで活動資金を募っており、「障害を知り、心のバリアフリーを少しでも進めるきっかけになれば」と協力を呼び掛けている。

福井医療大リハビリテーション学科3年の中村美晴さんら4人が、障害のある人の社会参加支援を実践する地域参加支援演習」の授業の一環で企画した。中村さんは、昨秋の全国障害者スポーツ大会で選手らのサポートボランティアを務めた。その際「聴覚障害のある人と一緒に過ごすだけでも

聴覚障害に理解を深めるパンフレットを手作りした福井医療大の学生グループ



福井医療大生の4人アオッサで14日催し

「聞こえない」障害知って

なかなか距離が縮められなかった」と感じたことなどから、授業のテーマに決め、昨秋から準備してきた。

パンフレットの内容は、県内の当事者団体を通じて行った聴覚障害のある人へのアンケートや支援者の話を基に構成した。日常生活の課題を、在宅時や公共交通機関、公共施設の利用など場面ごとにイラストを交えてまとめた。公共交通機関は「車内アナウンスが分からず乗り過す」、病院では「マスクを着けている人が多く、声がかもり、口元も見えない」と指摘。情報を文字で表示するなどの解決策を盛り込んだ。アオッサでの啓発イベントは14日午前

自作パンフ配布

10時〜午後3時半。当事者らの講演や座談会を通して、より暮らしやすい社会づくりを考える。難聴の疑似体験や支援機器の展示もある。参加無料。

イベント後の活動も含め、クラウドファンディングサイト「レディーフォード」で30日まで支援を募っている。中村さんは「聴覚障害は、外見で分かりにくく、軽視されやすい」と。コミュニケーションのとり方は人との隔たりをつくる本質的な問題で、当たり前のことだが「気づき」を伝えた」と話している。問い合わせは、メール)hsu_st17312@yahoo.co.jp)で受け付ける。(西脇和志)



社会部
☎ 0776(57)5117
FAX0776(57)5145